

知る人ぞ知る名所や史跡、グルメ情報も！



# 立花宗茂と 閻千代

〳復活の大名〳と〳戦う女城主〳

ゆかりの  
地を巡る

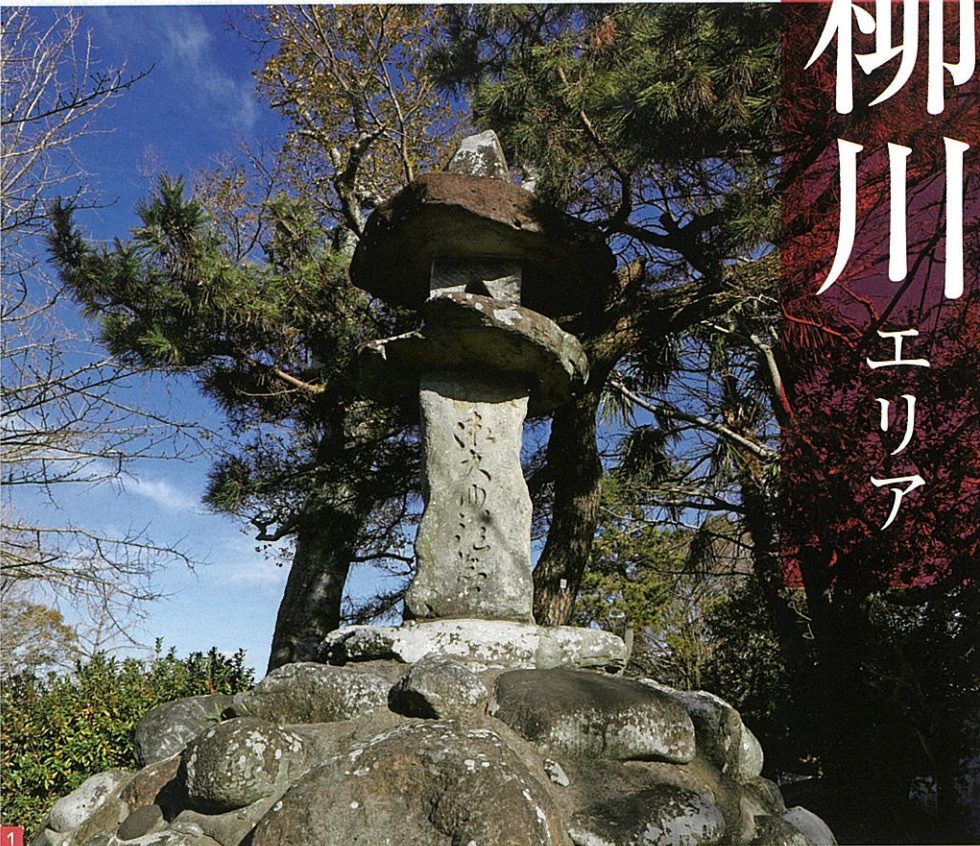


三柱神社

福岡県



# 柳川 エリア



1 城跡は中学校と高校の敷地内にあり、本丸跡に立つ石碑や石垣が残されている  
2 今も綱目状の堀割が残る柳川。町の随所に乗船場があり、「お堀巡り(川下り)」が楽しめる



2 柳川藩立花家の居城跡。永禄年間(1558~1570)に筑後国衆の蒲池氏が築いたとされ、水の利を生かした難攻不落の堅城であったといわれています。かつては壮大な天守を誇りましたが、1872(明治5)年に焼失。現在では石碑と石垣、天守台跡が「柳川城址」として往時を偲ばせます。

## 柳川城址

柳川藩立花家の居城跡。永禄年間(1558~1570)に筑後国衆の蒲池氏が築いたとされ、水の利を生かした難攻不落の堅城であったといわれています。かつては壮大な天守を誇りましたが、1872(明治5)年に焼失。現在では石碑と石垣、天守台跡が「柳川城址」として往時を偲ばせます。

柳川市本城町82-2  
☎0944・73・8111(柳川市生涯学習課)  
☑見学自由 ☑回なし

## 宗茂と閻千代が愛した美しい城下町

福岡県南部に位置し、水郷として名高い柳川市。戦国時代、この地一帯は豊後大友氏、島津氏、龍造寺氏などがたびたび争った激戦地でしたが、豊臣秀吉の九州平定後は立花宗茂に与えられ、宗茂の大名としての歩みはここから始まりました。

関ヶ原の戦いで西軍が敗れ、宗茂が改易されると、その後は石田三成を捕縛して功を立てた田中吉政の所領となり、現在の町の基礎が築かれます。田中氏が2代で無嗣断絶になると、浪人生活を経て奥州棚倉藩主となっていた宗茂が再封。旧領回復という悲願を遂げ、以降明治に至るまで立花家が柳川の繁栄を支えました。

かつての城下町には今も掘割が巡らされ、歴史情緒にあふれた町並みが広がります。そのほかにも、宗茂と閻千代、戸次道雪を祀る「三柱神社」や立花家の菩提寺である「梅岳山 福厳寺」、貴重な史料を収蔵する「立花家史料館」「柳川古文書館」など、水郷・柳川には立花家の息吹を感じられるスポットが点在しています。



## 三柱神社

宗茂と閻千代、戸次道雪を三神として祀っており、近年では「復活の大名」である宗茂にあやかり、必勝・就職・再就職・縁結びの社として広く信仰を集めています。現在、宮司を務めるのは立花家の子孫にあたる方です。



1 境内の一角に立つ末社「太郎福荷神社」  
2 拝殿。2005(平成17)年の火災により焼失したが、2008(平成20)年に再建された

柳川市三橋町高畑323-1  
☎0944・72・3883  
☑参拝自由  
(社務所は8:00~17:00)  
☑100台(¥500/終日)



## 日吉神社

創建は1290(正応3)年と伝わり、「山王さん」の愛称で親しまれています。宗茂や田中吉政ら歴代柳川城主からの崇敬も厚く、現在の社は18世紀初め、柳川藩3代藩主・立花鑑虎のころの建築と考えられています。

柳川市坂本町6 ☎0944・72・3357 ☑参拝自由 ☑10台(無料)



1 宗茂所用「鉄鍬革包月輪文最上胴具足(てっしほかわつみがちりんもんもがみどうぐそく)」。甲冑の大きさを宗茂が当時としてはかなり大柄であったことがわかる  
2 貴重な美術工芸品を多数展示  
3 場所は「立花氏庭園」(柳川藩主立花邸 御花)の敷地内にある

## 立花家史料館

国指定名勝「立花氏庭園」内にあり、立花家に伝来する美術工芸品約5,000点を収蔵。国宝1点、重要文化財1点を含む収蔵品の数々は宗茂や閻千代が生きた証であり、歴史のリアルを感じさせてくれる貴重な史料です。



柳川市新外町1(立花氏庭園内)  
☎0944・77・7888  
☑10:00~16:00※今後変更の可能性あり  
☑回なし※展示替期間で休館の場合があります。詳しくは、HPを御確認ください。  
☑大人¥1,000、高校生¥500、小中学生¥400※立花氏庭園入園料を含む ☑回なし



2 境内には本堂や天王殿、開山堂、鐘楼(しょうごろう)などが立つ  
3 本堂裏手の御霊屋に立つ宗茂の墓(左)と道雪の墓(右)  
4 重厚な山門は通常の四脚門とは異なる柳川特有の形状



## 梅岳山 福厳寺

黄檗宗の寺院で立花家の菩提寺。前身は立花山の麓にあった「養孝院」(のちの立花山 梅岳寺)で、1587(天正15)年、宗茂の柳川入封に伴い柳川に移されました。1620(元和6)年に再建され、1669(寛文9)年に黄檗宗へ改宗。立花家歴代当主の墓碑が静かにたたずんでいます。

柳川市奥州町32-1  
☎0944・74・0033  
☑参拝自由 ☑30台(無料)



## 柳川古文書館

筑後地方に散在する古文書を集積・整理・保管し、公開する施設です。最大の魅力は、「立花家文書」といった貴重な史料を手にとって閲覧できること。歴史好きには垂涎の施設であり、生涯学習の場として活用されています。



1 立花家に関する史料や豊臣秀吉の書状など、貴重な古文書を誰でも閲覧できる  
2 ※予約優先  
3 館内では常設展や企画展を実施

柳川市隅町71-2 ☎0944・72・1037 ☑9:30~16:30(最終入館16:00)  
☑回なし(☑の場合翌日以降の平日) ☑入館無料 ☑10台(無料)

## 宮永様居館跡

1587(天正15)年に宗茂が柳川城に入ると、閻千代は城外の宮永村に居を構えたため、「宮永様」と呼ばれました。現在は居館跡と推測される場所に石碑が建てられています。



柳川市上宮永町(馬場小路公民館)  
☎0944・73・8111(柳川市生涯学習課)  
☑回なし

## 戦国こぼれ話①

### 道雪のスパルタ教育

「梅岳山 福厳寺」には、由布惟信とその一族の墓もあります。惟信は戸次道雪と宗茂に仕えた忠臣ですが、こんな逸話が残されています。ある日のこと。幼い宗茂と道雪が散歩中、宗茂がいが栗を踏み、足にとげが刺さってしまいました。「痛い、抜いて!」と頼む宗茂のもとに惟信が駆けつけますが、抜くどころか逆に栗を足に押し付けるではありませんか。宗茂は驚き、泣き叫ぼうとするも、道雪が鬼の形相でこちらを見ていたのでそれでもできず。後年「あの時は参った…」と述懐したといえます。おぼっちゃま育ちだった宗茂は、道雪に厳しく教育されたようです。

## 柳川の必食グルメ

### 元祖 本吉屋 本店

柳川名物「うなぎのせいろ蒸し」は、焼きだての蒲焼きをご飯の上にのせてから蒸し上げる特有の調理法。これを考案したのが「元祖 本吉屋」で、1681(天和元)年の創業以来、340年にわたって変わらぬ味を継承する一軒です。

柳川市旭町69 ☎0944・72・6155  
☑10:30~20:00(L019:30) ☑回なし(☑の場合翌日) ☑120席 ☑30台(無料)



1 「せいろ蒸し(肝吸い・香の物付き)」(¥4,100)は国産うなぎを厳選。串打ちをせずに焼き上げるため、熟練の技術を要する  
2 風情あふれる店構え



### 立花山

糟屋郡久山町と新宮町、福岡市東区にまたがる標高367mの山。古くから戦略上の重要拠点であり、ここにはかつて立花宗茂や戸次道雪らが城主を務めた「立花山城」がありました。初心者でも登りやすい山として親しまれており、山頂からの眺望は抜群。山頂付近のクスノキ原生林は、国の特別天然記念物に指定されている貴重な自然です。



1立花山山頂からの眺め。福岡市街や博多湾、玄界灘を望む 2山頂の「立花山城跡」。かつての名残を留める 3クスノキ原生林でひと際存在感を放つ「立花山大クス」 4わずかに残る「立花山城」の石垣跡

### 薦野増時の墓

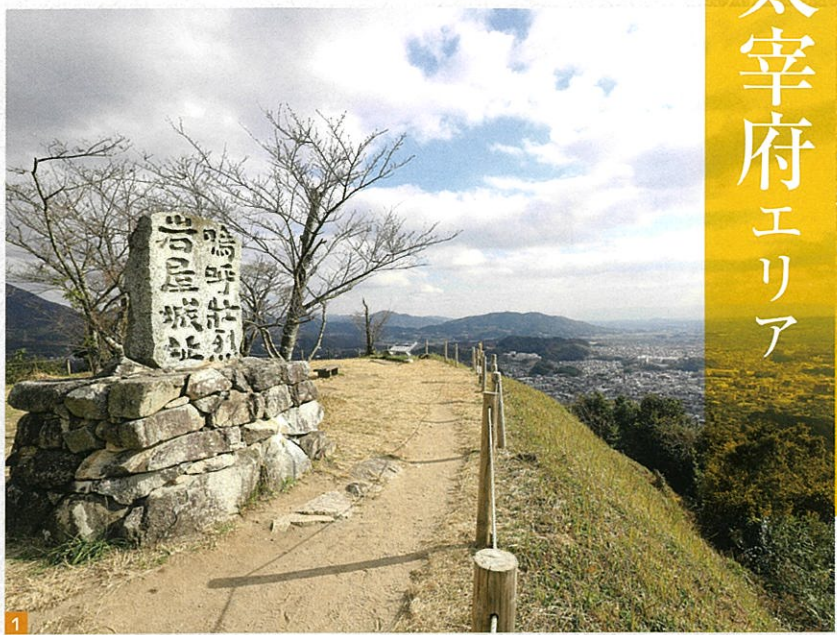


林の中にひっそりと墓碑がたたずんでいる

立花家を支えた重臣で、その才能を愛した戸次道雪は増時を養子に迎え、家督を譲ろうとしたともいいます。遺骨は分骨され、「立花山梅岳寺」で道雪の墓の隣にも納められています。

国古賀市薦野1386-18  
☎092-944-6214  
(古賀市文化課)  
☒参拝自由 回なし

## 宗茂の父が静かに眠る 太宰府エリア



### 岩屋城跡

「岩屋城」は、四王寺山の中腹に築かれていた山城です。1586(天正14)年、九州制覇を目指す島津氏4万の大軍に対して、高橋紹運はわずか700余名で籠城。最後まで奇烈に戦い抜き、紹運以下家臣全員が玉砕したと伝わります。



1本丸跡からは太宰府市街を一望。遮蔽物もなく、絶好のビューポイントとなっている 2山道に立つ案内板が目印。近くには紹運の墓所(※私有地)もある

**壮絶な籠城戦の舞台となった古の都**  
東アジアとの交流拠点として栄えた「西の都」太宰府(現太宰府市)。この地を任されていたのが、立花宗茂の実父・高橋紹運です。猛将としての勇名は「岩屋城の戦い」で知れ渡りました。紹運は徹底抗戦ののち自害しますが、敵方の島津氏も甚大な被害を出し、軍の立て直しを余儀なくされます。その間に豊臣秀吉の援軍が九州に到着。紹運が時間を稼いだことで戦局は大きく変わり、秀吉の援軍を得た宗茂は父の無念を胸に島津軍を打ち破っていきます。太宰府市には、戦場で散った名将の壮絶な物語が語り継がれているのです。

### 親子決死の防衛線

「岩屋城」に籠った紹運と同様に、嫡男・宗茂は「立花山城」、次男・立花直次(高橋統増)は「宝満城」に籠城します。「宝満城」は落城し、直次と実母は島津氏に捕らえられたといわれています。

## 宗茂を育てた 2人の父

### 高橋紹運

宗茂の実父。道雪に宗茂を養子にと乞われ、はじめは拒否するも再三の申し出を断れず承諾。それでも「道雪殿を父の父と思ひ、道雪殿と私が争うことになれば私を討て」と言って宗茂を送り出したといひます。「岩屋城の戦い」では忠義を尽くして戦死(享年39)。秀吉は「乱世の華」と紹運を称えました。宗茂の義を重んじる気質は、父譲りなのかもしれません。

### 戸次道雪

豊後大友氏を支えた重臣で、閩千代の実父。男児に恵まれなかったため、高橋家の嫡男であった宗茂を養子に迎え、立花家の当主として鍛え上げました。鬼道雪や雷神の異名をとるなど武勇に優れた名将であり、戦場では生涯無敗。雷を斬ったという伝説もあり、愛刀の「雷切」が今に伝わっています。1585(天正13)年、現久留米市北野で陣没(享年73)。

### 戦国こぼれ話③

宗茂イイ人すぎ？ 仇敵との友情  
関ヶ原の戦いに敗れて柳川に戻る道中、宗茂は同じ西軍だった島津義弘と出くわします。この時の島津軍は日本史上に残る凄絶な退却戦の末、残る兵はわずか。まさに満身創痍でした。島津氏といえば、父・高橋紹運を死なせた憎き相手。家臣らは「今こそ仇を討つ時！」といきり立ちます。しかし、宗茂は「敗軍を討つなど武士のやることではない」と一喝。むしろ、西軍の仲間として護衛を申し出たといひます。その後、国許に戻った義弘は、この恩に報いようと東軍に攻められる柳川に援軍を送ります。宗茂の清藤は、仇敵との友誼をも可能にしたのです。

### 太宰府の必食グルメ

#### 天然とんこつラーメン専門店 一蘭 太宰府参道店

注目は学問の神様「太宰府天満宮」にちなんだ「合格ラーメン」。五角(ゴーク)形の「合格どんぶり」や「長〜く幸福」が訪れることを祈願した59(ゴーク)cmの「合格麺」など、とことん縁起のよさを追求するこだわりようです。

国太宰府市宰府2-6-2 ☎092-921-5117  
☎9:00~19:00※営業時間は事前に御確認ください 困なし 16席 回なし



1「合格ラーメン」¥980 2「一蘭」といえばおなじみの「味集中カウンター」 3場所は太宰府駅すぐそば

### 戦国こぼれ話②

#### 義に生きた武将・宗茂

戸次道雪や宗茂に仕え、立花家随一の切れ者といわれた薦野増時。増時は関ヶ原の戦いにおいても、西軍に勝ち目なし!と読み、東軍につくよう進言します。また、徳川家康も宗茂の実力を高く買っており、法外な恩賞をちらつかせて東軍に誘いました。しかし、宗茂は断固として東軍につくことを拒みます。豊後大友氏の一家臣であった立花家を独立大名に取り立てたのは、ほかでもない豊臣秀吉。宗茂は「秀吉公の恩義を忘れて東軍につくなどありえない」「戦の勝ち負けではない」と西軍についたのです。人格者で忠義に厚いとされた宗茂らしい逸話です。



立花山の麓に鎮座している

### 六所神社

新宮町・立花口の産土神。戸次道雪は六所権現の崇拝厚く、出陣に際し戦勝祈願をしたと伝わります。境内には県指定天然記念物のカゴノキや道雪の夫人が寄進したという薬師堂もあります。

国糟屋郡新宮町立花口1125  
☎092-962-5511  
(新宮町 社会教育課 歴史資料館)  
☒参拝自由 回10台(無料)

### 立花山 梅岳寺



もとは「花谷山神宮寺」といいましたが、戸次道雪とその母・養孝院が葬られてから現在の寺号に改称しました。道雪、養孝院、家臣である薦野増時の墓が並んでいます。

国糟屋郡新宮町立花口1275 ☎092-962-1252  
☒参拝自由 回10台(無料)



だいほんざん ぜんどうじ  
大本山 善導寺

1208(承元2)年、聖光上人が開山した浄土宗の寺院。広大な境内には国の重要文化財である本堂や、県指定天然記念物である大クスなどが点在しています。境内の奥には筑後国主・田中吉政の供養塔と並んで閨千代の供養塔があり、近年注目を集めています。

国久留米市善導寺町飯田550 ☎0942-47-1006 ☑参拝自由 ㊦300台(無料)



1 威容(いよう)を誇る本堂 2 2016(平成28)年に閨千代の供養塔が発見された 3 県指定の天然記念物である樹齢800年の大クス

きたのてんまんぐう  
北野天満宮

創建は1054(天喜2)年。玉垣の内では「御霊梅」が見事な花を咲かせ、境内では樹齢1000年といわれるクスノキが存在感を放ちます。菅原道真と河童の伝説もあり、「河童の手」が保管(非公開)されているとか。

国久留米市北野町中3267 ☎0942-78-2140 ☑参拝自由 ㊦30台(無料)



1 ひと際目を引く楼門 2 美しい御神橋もこの見どころの一つ



1

古の伝説や宗茂の功績が残る  
八女・筑後・広川エリア



そうごくじ  
宗岳寺

1596(慶長元)年創建の浄土宗鎮西派の寺院。この地方に伝わる「羽犬伝説」発祥の寺院といわれ、境内には地名の由来になったともいわれる「犬の塚」(羽犬塚)と呼ばれる大きな塚が建てられています。その隣には豊臣秀吉が寄進したという「六地藏尊」も残されています。



2 戦国時代末期の創建から400年以上の歴史をもつ「宗岳寺」 3 境内にある「犬の塚」(羽犬塚・右)と「六地藏尊」(左)

国筑後市羽犬塚521 ☎0942-52-2620 ☑参拝自由 ㊦2台(無料)



JR羽犬塚駅前の銅像

2つの羽犬伝説

その1. 愛犬説

九州征伐の際、秀吉が連れて来た羽のある犬(あるいは羽が生えたように跳ね回る犬)が病になって死に、家臣が塚を築いた

その2. 悪犬説

どう猛な羽犬が暴れ回っていたので秀吉が退治。しかし犬の賢さや強さに感心し、丁寧に葬った

歴史は受け継がれ、今と繋がる  
筑後市羽犬塚の地名の由来になったともいわれる羽犬伝説は、宗茂も活躍した豊臣秀吉の九州征伐にまつわる逸話です。愛犬説と悪犬説の2つがあり、筑後市のマスコットキャラクターである「はね丸」は、この羽犬をモチーフにしたもの。

前など、市内数か所に設置されています。  
広川町の「西念寺」は、立花家とも縁のある蒲池氏の菩提寺。八女市「花宗川」の歴史をひもとけば、宗茂が熱心に国づくりに励んでいたことがわかります。宗茂の残した功績は、私たちの暮らしとも繋がっています。

さいねんじ  
西念寺



鎌倉時代から筑後で勢力を誇った蒲池氏。その分流(上蒲池氏)の出である全融を開基とする寺院です。上蒲池氏の一族は、立花家の与力となって関ヶ原の戦いなどにも従軍しました。

国八女郡広川町新代873 ☎0943-32-1260 ☑参拝自由 ㊦40台(無料)

戦国こぼれ話④

秀吉、閨千代にビビる

豊臣秀吉といえば、貧しい身から成り上がり、ついには天下人となった英傑。一方で無類の女好きとしても知られ、絶大な権力を手に大名の奥方や家臣の娘でさえ構わず手籠めにしていたといわれています。そんな秀吉が文禄・慶長の役の折、佐賀の名護屋城に滞在中、美しいと評判だった閨千代を呼びつけます。夫・宗茂は遠く朝鮮の地にいて不在。この時をねらった故意犯でした。これに対し、身の危険を察知した閨千代は呼び出しには応じましたが、侍女に鉄砲を持たせ、自らも完全武装で秀吉のもとへ乗り込んだといわれています。閨千代の強烈な意思表示に、さすがの秀吉も何もできなかったそうです。



はなむねがわ はなむねぎ  
花宗川と花宗堰

「花宗川」は、宗茂が農業用水の確保のために開発を命じた半人工運河。「花宗堰」は矢部川を分流する起点であり、「花宗」は「立花宗茂」の真ん中2文字をとったものといわれています。

国八女市津江 ☎0943-22-4064(花宗用水組合) ☑見学自由 ㊦なし



1 長さ120mの「花宗堰」。開発は宗茂から関ヶ原の戦い後に柳川城主となった田中吉政へと引き継がれた 2 現在の「花宗川」

併せて立ち寄ろう！  
久留米の必食グルメ

道の駅くるめ  
ほとめき庵

無農薬・無化学肥料の野菜や道の駅の野菜、減農薬玄米などを使った料理20~30種から好きなものを選ぶセルフ方式。メインと副菜、ごはんが選べ、自家製手ごねだごが自慢の「だご汁」が付く「ほとめきだご汁セット」が人気です。

国久留米市善導寺町木塚221-33 ☎0942-47-4222 ☑11:00~16:00、㊤㊤~17:00※営業時間は事前に御確認ください ㊦第3㊤ ㊦90席 ㊦111台(無料)



1 だご汁(小) ¥310 2 料理の内容は季節によってさまざま。「ほとめきだご汁セット」は¥730 ㊤㊤以外にチャンポンやカレーなどもある

閨千代供養塔の謎と道雪終焉の地  
1569(永禄12)年、閨千代は戸次道雪の娘として筑後国山本郡草野(現久留米市草野)に生まれました。「大本山 善導寺」で閨千代の供養塔が発見されたのは近年のこと。閨千代の父・道雪は、1584(天正12)年、同寺の大檀那であった草野氏が豊後大友氏から離反しい最期でした。

たことに怒り、法主以下8名を殺害、寺も焼き討ちにしたという歴史があります。にもかかわらず、なぜ閨千代の供養塔が同寺にあるのかはわかっていません。道雪は「北野天満宮」の辺りで陣没したと伝わります。生涯戦に明け暮れた道雪らしい最期でした。



### 中八院古戦場跡と三太夫地蔵

1600(慶長5)年、立花氏と肥前(佐賀)鍋島氏の軍勢がこの一帯で激突しました(江上・八院の戦い)。この戦いで立花軍は多くの重臣が討死。古戦場跡に立つ「三太夫地蔵尊」は、特に目覚ましい奮戦ののちに戦死した立花三太夫(統次)を供養するためのものです。

国大川市中八院 ☎0944・85・5618(大川市生涯学習課) ☑見学自由 回なし



1今は静かな時が流れる「中八院古戦場跡」  
2「三太夫地蔵」。地元では「立花さん」と呼ばれ親しまれている

### 九州の関ヶ原と宗茂ゆかりの神社

関ヶ原の戦いで西軍は敗れましたが、九州の関ヶ原はまだ終わりません。本国の柳川に戻った宗茂に九州の東軍諸侯が攻めかかります。豊前の黒田、肥前の鍋島、肥後の加藤。特に鍋島軍との「江上・八院の戦い」は熾烈を極め、立花軍は多くの将兵を失います。古戦場跡周

辺には戦死者を祀る祠などが残されており、今も地域住民らによって大切に守られています。

みやま市には宗茂が復興させた神社や、戦での無事を祈願した神社があります。どちらも静かな社であると、共にも貴重な伝統芸能が息づく場所でもあります。

## 立花家の思いは次世代へ 大牟田エリア



現在の場所に遷宮(せんぐう)したのは1896(明治29)年。同じ境内に「熊野神社」も鎮座している

### 三笠神社

宗茂の弟・立花直次が藩祖となった三池藩の6代藩主・立花種周が、移封先である福岡県伊達市で先祖の霊を祭祀したことに始まり、1835(天保6)年に創建されました。1870(明治3)年、大牟田市三池に遷座。宗茂の実父・高橋紹運とその正室、そして直次を祀っています。

国大牟田市鳥塚町87 ☎0944・53・0137 ☑参拝自由 回50台(無料)

三池藩の礎を築いた賢弟・立花直次  
かつて炭鉱の町として栄えた大牟田市には、江戸時代、三池藩が置かれていた。市の北部は柳川藩の一部。藩祖となるのは、立花宗茂の実弟・立花直次。直次は兄をよく支えて多くの功を立てる一方、柳生宗矩に師事して「新陰治源流」を開くなど剣術の達人でもあり

### 金剛山 紹運寺



1621(元和7)年、立花直次の子で三池藩初代藩主・立花種次によって建立されました。高橋紹運の菩提寺であり、「岩屋城の戦い」で犠牲になった家臣たちも弔う寺院です。

国大牟田市今山2599-1 ☎0944・54・8403 ☑参拝自由 回10台(無料)



境内には立花種次の墓のほか、十六羅漢(らかん)の石仏などもある。位牌と共に本堂に安置されている高橋紹運の木像

### 併せて立ち寄ろう！ 大牟田の必食グルメ

### レストラン だいふく

創業95年。元々は福餅の行商から始まった菓子舗で、現在レストランも手がけています。ご当地グルメ「おむた洋風かつ井」は、サクッと揚げたトンカツに自家製のデミグラスソースがたっぷり。コク深さが違います。

国大牟田市有明町2-1-3 3F ☎0944・53・3333 ☑11:00~14:00(L013:30)、17:00~21:00(L020:00) 回26台、回25席 回26台(無料)



1「洋風かつ井」単品¥900、セット¥1,280  
2自社ビルは地元のランドマーク。1Fは「菓子舗 だいふく」



## 立花宗茂と閻千代、立花家のその後

激動の時代を生きた宗茂と閻千代。関ヶ原の戦い後、宗茂が改易されると、閻千代は加藤清正が庇護し、領内の腹赤村(現熊本県玉名郡)で暮らします。しかし、そこで病を得て34歳で死去。宗茂の大名復帰を見届けられないまま世を去りました。一方、大名復帰後の宗茂は、徳川家に重用されます。特に3代将軍・徳川家光には厚遇され、御咄衆

として戦国の物語などを語ったといわれています。1638(寛永15)年には島原・天草の乱にも従軍。「武神再来」と喝采を浴びました。宗茂は76歳の長寿で死去します。生涯実子に恵まれなかったため、弟・直次の子を養子に迎えて2代藩主・立花忠茂としました。その後、柳川藩、三池藩共に明治に至るまで存続。今もご子孫が立花家を守り続けています。



立花家史料館蔵

宗茂所用の甲冑「鉄鍬革包月輪文最上胴具足」(てつしほかわつづみがちりんもんもがみどうぐそく)

### 戦国こぼれ話 ⑤

### 名将・加藤清正の進軍ルートを変更させた閻千代

勇猛果敢で築城の名手である加藤清正。関ヶ原の戦い後、清正は宗茂への降伏勧告のため柳川へ進軍します。ですがその行く先には臨戦態勢の閻千代が。「やめとこ...」。清正は閻千代のいるルートは避けて通ったとか。

### 荒人神の祠

立花氏、鍋島氏の敵味方を問わず、「江上・八院の戦い」によって戦死した人々の遺骨を1か所に集めて祀ったと伝えられる祠です。今でも地元の人々によって供養祭が行われています。

国三潁郡大木町上八院 ☎0944・32・1047 (大木町教育委員会生涯学習課) ☑参拝自由 回なし



「荒人神の祠」。今も大切に管理されている

### 上庄八坂神社

宗茂が再興し、「上庄の祇園さん」と呼ばれ親しまれている神社です。毎年7月に行われる神事「大人形」は、再興のきっかけとなった宗茂の見た夢をもとに作られたと伝わります。

国みやま市瀬高町上庄155 ☎0944・62・4426(社務所) ☑参拝自由 回10台(無料)



創建は1176(安元2)年といわれている古社



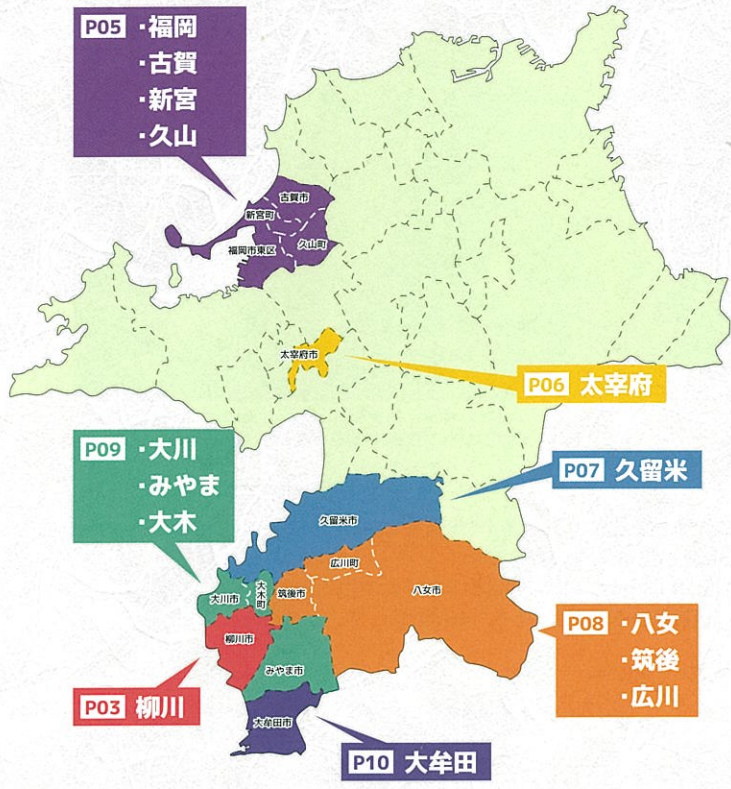
氏子の自主運営による「宝満神社奉納能楽」は県の無形民俗文化財に指定

### 宝満神社

1592(文禄元)年、朝鮮の役(文禄の役)に際し、この神社で宗茂が戦の無事を祈願したと伝えられています。例年秋に行われる「宝満神社奉納能楽」(新開能)は「農民能」として全国的にも貴重な伝統民俗芸能です。

国みやま市高田町北新開 ☎0944・32・9183(みやま市教育委員会社会教育課) ☑参拝自由 回なし

# 立花宗茂と閻千代 ゆかりの地MAP



## 立花宗茂と閻千代 NHK大河ドラマ招致委員会について

福岡県内外には、立花宗茂とその妻・閻千代ゆかりの地が数多くあり、柳川市を中心に広域の官民団体で構成された招致委員会を発足。大河ドラマ招致活動に取り組んでいます。

お問合せ

「立花宗茂と閻千代」NHK大河ドラマ招致委員会事務局(柳川市観光課内)  
☎0944・77・8563 FAX 0944・73・2516 🌐<https://www.muneshige-taiga.jp/>

【お問合せ】

編集・発行 / 福岡県 企画・地域振興部 広域地域振興課 ☎092・643・3177 🌐<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/taigasyouti.html>

発行年月 令和3年9月